



## 祝 辞

Nakamura Mutsuo

北海道大学 総長 中 村 睦 男

本日ここに、(社)日本技術士会北海道支部・技術士センター創立 40 周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

また、技術士の皆様方には日々科学技術の高度の専門応用能力を発揮され、国内の産業育成や国際協力など、国内外でご活躍されておりますことに深く敬意を表させていただきます。

21 世紀の我が国は「科学創造立国」としてますます産業の成熟を促し、豊かな社会経済の発展に努めるのは当然のことですが、地球環境の持続的保全、健康で安心して暮らせる社会構築のために貢献していくことが重要になります。このような状況のもと技術士の皆様方が社会で果たされる役割は、ますます大きくなるものと期待されます。

国立大学が独立法人化して 2 年経ち、3 年目を迎えました。北海道大学でも自主的に大学の運営を行い、従来から行ってきました教育・研究に加えて、社会貢献というものを第三の使命として、大学が自治体や産業界とより緊密に連携をとり地域のニーズに合った成果を出すことも重要な課題としております。

北海道大学の北キャンパスエリアにあります産学官連携システム「北大リサーチ&ビジネスパーク構想」はその代表的なモデルになっております。

本日記念講演で講演されました喜田宏教授の鳥インフルエンザなど「人獣共通感染症」、これは去年から人獣共通感染症リサーチセンターというものを特別に文部科学省から認めていただきました。これも喜田教授の貢献によるものでございます。そのほかに「次世代ポストゲノム研究センター」、「電子科学研究所のナノテクノロジーセンター」など世界でもトップレベルの研究を始動させております。

基礎研究から応用研究、実用化研究、事業化に至る各機能がその能力を十分に発揮して「知の活用」により活動成果を社会に還元するシステムであります。けれども、知の活用は大学人というのはなかなか能力がないところがありますので、これはまさに産業界の皆様方のお知恵をお借りし、あるいはお力添えをいただかなければならない分野でございます。

今までの大学の任務に MOT（技術経営）や TLO（技術移転機関）が加わることになり、技術士の皆様方とのかかわりがさらに緊密になっていくものと期待しております。

技術士会とは人づくりの面でも緊密な連携が必要になります。JABEE 教育では、本学を初め、道内の幾つかの理工系大学では修習技術者の認定された教育課程が取り入れられております。教育でも、大学院で将来の研究者を育てることが私どもの大きな任務となっております。博士が従来のように狭い意味の研究者だけでなく社会各界でもリーダーとして活躍できる、そういう社会に日本もこれからしなければいけないものと考えておりますので、この点もご理解をいただきたいと思っております。

最後に、日本技術士会のますますのご発展と、技術士の皆様のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。どうも本日はおめでとうございます。